

沖縄キリスト教短期大学学則

第 1 章 総 則

(目的)

第 1 条 沖縄キリスト教短期大学（以下「本短大」という。）は、教育基本法及び学校教育法に従い、キリスト教精神に基づいた学校教育を施し、人格の完成をめざし、社会に有用なる人材を育成することを目的とする。

(自己点検・評価、改善等)

第 2 条 本短大は、前条の目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動の状況について自ら点検及び評価を行い、それに基づいて改善を実施し教育水準の向上を図る。

2 前項の自己点検・評価を行うため、前項の趣旨に即し適切な項目を設定し実施する自己点検・評価・改善委員会を置く。

3 公的認証評価機関の評価を積極的に受け、教育の改善に努めるものとする。

4 自己点検・評価・改善委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(第三者評価協議会の設置)

第 2 条の 2 本短大は、前条の点検及び評価の結果について、本短大の職員以外の者による検証を行うため、沖縄キリスト教短期大学評価協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 本短大は、本短大の教育理念を実効あらしめるため、この点検・評価を怠らないように努める。

3 協議会に関する必要な事項は、別に定める。

(住所)

第 3 条 本短大は、沖縄県中頭郡西原町字翁長 7 7 7 番地に住所を置く。

(学科及び定員)

第 4 条 本短大に次の学科を置き、定員は次のとおりとする。

1 英語科、保育科

2 学生の定員は次のとおりとする。

学 科	入学定員	収容定員
英語科	100名	200名
保育科	100名	200名

(教育研究上の目的)

第 4 条の 2

1 英語科の教育研究上の目的

(1) 英語と日本語によるコミュニケーション能力を養う。

(2) 国際理解を深める能力を養う。

(3) プレゼンテーションに関する能力を養う。

(4) 社会に奉仕し平和に貢献できる能力を養う。

2 保育科の教育研究上の目的

(1) キリスト精神に基づき、創造的で、感性豊かな保育者を養成する。

(2) 学生と教師が相互の対話を重視し、人間力を高め合う保育者を養成する。

(3) 多彩なカリキュラムを通して、実践力、応用力を身につけた保育者を養成する。

(4) 国際的視野を持ち地域に貢献できる保育者を養成する。

(修業年限及び在学年限)

第 5 条 本短大の修業年限は 2 年とする。

2 学生は、4 年をこえて在学することはできない。

3 職業を有している等の事情により修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを申し出たときは、第 1 項の規定にかかわらず修業年限を 2 年を超えることができる。

第 2 章 学年・学期・休業日

(学年)

第6条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(学期)

第7条 学年をわけて、次の2学期とする。

第1学期 4月1日から9月30日まで

第2学期 10月1日から翌年3月31日まで

(開学記念日及び休業日)

第8条 本短大の開学記念日は、4月9日とする。

2 休業日は、次のとおり定める。ただし、事情により変更することができる。

(1) 日曜日

(2) 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律178号)に規定する日

(3) 慰霊の日 6月23日

(4) 春季休業 2月10日から3月20日まで

(5) 夏季休業 8月1日から9月20日まで

(6) 冬季休業 12月24日から翌年の1月4日まで

3 その他、教育課程の基準に定める授業科目及び特別教育活動の年間総日数・総時間数を減じない範囲において、学長は教育を効果的に推進する目的で授業を行わない日を定めることができる。

(休業中の授業)

第9条 休業中でも特別の授業をする事がある。

第 3 章 授業科目・単位数・授業日数

(授業科目名及び単位数)

第10条 授業科目は、総合教育系科目・専門教育科目に分ける。

2 授業科目及び単位数は次によるものとする。

1 総合教育系科目については、別表1のとおりとする。

2 英語科専門教育科目については、別表2のとおりとする。

3 保育科専門教育科目については、別表3のとおりとする。

(単位の計算方法)

第11条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

1 講義及び演習については、15時間から30時間の授業をもって1単位とする。

2 実習及び実技については、30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

3 卒業研究等については、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定める。

(卒業に要する単位数)

第12条 卒業に必要な単位数は62単位とし、その内容は次のとおりとする。

1 総合教育系科目 必修科目および選択必修科目を含む16単位以上

2 専門教育科目 46単位以上

(1年間の授業期間)

第13条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め35週にわたることを原則とする。

第 4 章 入学・休学・復学・転入学・退学・懲戒

(入学の時期)

第14条 入学の時期は毎年4月とする。

2 前項の他にも、必要と認められた場合は、学期の区分に従い入学することができる。

(入学資格)

第15条 入学を志願し得る者は、次の各号のいずれかに該当する者でなければならない。

- 1 高等学校卒業生
- 2 通常の課程による12年以上の学校教育を終了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む）
- 3 外国において、学校教育における12年の課程を修了した者
- 4 文部科学大臣の指定した者
- 5 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年1月31日文部科学省令第1号）に基づき、高等学校卒業程度認定試験に合格した者
- 6 沖縄キリスト教短期大学において、相当の年齢に達し、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（入学志願）

第16条 入学志願者は、所定の期日までに入学願書、その他必要な書類に検定料を添えて提出しなければならない。提出すべき書類は、その都度これを定めて公示する。

（入学試験・検定料）

第17条 本短大に入学を志願した者に対しては、入学試験を行う。入学試験に関しては、その都度これを定めて公示する。

- 2 検定料は、30,000円とする。

（入学許可）

第18条 入学は、教授会の議を経て学長が許可する。

（入学者提出書類・納入金）

第19条 入学を許可された者は、所定の期日までに、入学金及びその他所定の学費を納入するとともに、身もと保証書その他本短大所定の書類を提出しなければならない。同書類の提出又は納入金の納入を怠った者は、入学許可を取り消すことがある。

（休学）

第20条 疾病その他の事故により、3カ月以上修業できないと認められる者は、その願い出により、学長は、休学を許可することがある。

- 2 伝染病その他により、他の者に迷惑を及ぼすおそれありと認められる者に対しては、教授会の議を経て、学長は休学を命ずることがある。
- 3 疾病その他の事故により、休学しようとする者は、その理由を付して保証人連署のうえ、学長に願い出なければならない。
- 4 休学は2年以上にわたることはできない。但し、特別の理由がある場合は、引きつづき休学を許可することがある。
- 5 休学期間は、第5条に規定する在学年限には算入しない。

（復学）

第21条 休学者は、学期の始めでなければ復学することはできない。この場合でも、学長の許可を得なければならない。

（転学）

第22条 他の大学に入学又は転学を希望する者は、保証人連署で転学願いを提出し、学長の許可を得なければならない。

（転入学）

第23条 他の短期大学から本短大に転入学を志願する者がいるときは、欠員のある場合に限り、学長は教授会の議を経て相当年次に入学を許可することがある。

- 2 転入学に関する細則は、別に定める。

（所属学科の変更）

第24条 学生は、各々が所属している学科から他の学科への変更は、原則として許可されない。特別の事由ある者に限り、学年の始めに教授会の議を経て、学長はこれを許可することがある。

- 2 所属学科の変更に関する細則は、別に定める。

(願い出による退学)

第25条 退学をしようとする者は、科長を経て願い出、学長の許可を得なければならない。

(再入学)

第25条の2 退学した者又は除籍された者が再入学を志願した時は、欠員のある場合に限り、教授会の議を経て、学長がこれを許可することができる。

2 ~削除~

3 既に修得した授業科目及び単位数の取扱い並びに在学すべき年数については、教授会の議を経て学長が決定する。

(表彰)

第26条 学生が特に優秀で品行方正な者または他の模範と認むべき行為のあった者に対して、学長は教授会の議を経て、これを表彰することができる。

(懲戒)

第27条 学生が、本短大の諸規程又は指示した事項、もしくは命令にそむき又は学生として本分に反した行為がある場合、学長は教授会の議を経て、退学、停学及び訓戒の懲戒処分に付すことができる。

2 前項の懲戒処分は、次の各号の一に該当する者に対して行う。

1 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

2 学業を怠り、成業の見込みがないと認められる者

3 本短大の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者

(除籍)

第28条 次の各号の一に該当する者は、教授会の議を経て、学長がこれを除籍する。

1 在学年限をこえた者

2 第20条第4項に規定する休学期間をこえてなお修学できない者

3 休学および休学延長の手続きを怠った者

4 学費の納付を怠り、督促をしてもなお納付しない者

5 長期間にわたり行方不明の者

(復籍)

第28条の2 除籍された者が復籍を希望する場合は、教授会の議を経て、学長が復籍を認めることができる。

2 復籍を許可された者の納入金は、学籍異動に関する細則の第7条第4項に準ずる。

第5章 成績考査及び卒業

(成績考査)

第29条 各授業科目の履修成績は、每学期末授業担当者がこれを評定する。評価は期末試験成績、随時試験成績、出席状況・平常の学習状況・レポート等により総合的に行う。

2 評価の結果は、次のとおり表示する。

秀	90点以上
優	80点～90点未満
良	70点～80点未満
可	60点～70点未満
不可	60点未満

不可の場合は、履修したものと認められない。

3 実習等の評価についても、秀・優・良・可・不可であらわす。

(入学前の既修得単位の認定)

第29条の2 本短大は、教育上有益と認めるときは、学生が入学前に短期大学又は大学において履修した授業科目について修得した単位を、入学後の本短大における授業科目履修により修得したのものとして認定することができる。

2 学生が入学前に行った第29条の4に規定する学修を本短大における授業科目の履修と見なし、単位を与えることができる。

3 前2項により本短大において修得したものとみなすことのできる単位数は、第29条の3第1項及び第29条の4第1項の単位数と合わせて30単位を超えないものとする。この場合において、第29条の3第2項により修得した単位と合わせるときは、45単位を超えないものとする。

4 前3項の単位認定の取り扱いについては、別に定める。

(他の短期大学等における授業科目の履修等)

第29条の3 本短大において教育上有益と認めるときは、他の短期大学又は大学との協議により、学生が当該他の短期大学又は大学の授業科目を履修することを認めることがある。当該他の短期大学又は大学における授業科目の履修により修得した単位については、30単位を超えない範囲で、本短大において修得したのものとして認定することができる。

2 前項の規定は、学生が外国の短期大学又は大学に留学する場合にも準用する。

3 前2項の実施に関して必要な事項については、別に定める。

(短期大学又は大学以外の教育施設等における学修)

第29条の4 本短大において教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部大臣が別に定める学修を、本短大における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることのできる単位数は、第29条の3の第1項及び第2項により本短大において履修したものとみなす単位数と合わせて30単位を超えないものとする。

3 前2項の単位の認定については、別に定める。

(卒業・学位・教育職員免許)

第30条 本短大に2年以上在学し、本学則に定める授業科目及び単位数を修得した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。卒業の認定及び卒業証書授与は、3月及び9月に行う。

2 学長は、卒業を認定した者に短期大学士の学位を授与する。

3 学位授与に関する規程は、別に定める。

4 教育職員免許状を取得しようとする者は、第12条の規定のほか、教育職員免許法及び同法施行規則に規定された単位を修得しなければならない。なお、本短大において取得できる免許状の種類は次のとおりとする。

学 科	取得できる教育職員免許状の種類
保育科	幼稚園教諭二種免許状

5 本短大保育科において保育士資格を取得しようとする者は、第12条の規定のほか、児童福祉法施行規則に規定された単位を修得しなければならない。

6 本短大において観光実務士称号を取得しようとする者は、本短大が定める授業科目、単位を修得しなければならない。

7 観光実務士称号授与に関する規程は、別に定める。

(公開講座等)

第30条の2 社会人の教養を高め、文化の向上に資するため、公開講座・学外講義等を開設することができる。

2 公開講座開設科目の中、学則第10条に規定する授業科目について、履修生は評定を受け合格者は単位を修得することができる。単位修得を志願する者の身分は、学則第34条に定める科目等履修生とする。

3 公開講座に関する細則は別に定める。

第 6 章 大学運営協議会、教授会

(大学運営協議会)

第31条 本短大の管理運営に関する重要な事項を審議するため、大学運営協議会を置く。

2 大学運営協議会の下に、大学運営各種委員会を置く。

3 大学運営協議会及び大学運営各種委員会に関する必要な事項は、別に定める。

(教授会)

第32条 本短大に教授会を置き、教授、准教授、講師、助教をもって組織する。

(審議事項)

第33条 教授会における審議事項は、別に定める。

第 7 章 特別学生

(委託学生)

第 34 条 公共団体又はこれに準ずる機関から、本短大の特別科目について修学を委託された者がある時は、教授会の議を経て、委託学生として学長は入学を許可する。

(科目等履修生)

第 35 条 本短大の学生以外の者で、本短大の特定の科目について履修を希望する者がある時は、教授会の議を経て履修を許可することがある。履修生は成績評定を受け、合格者は単位を修得することができる。なお、修得単位が第 30 条第 4 項に該当する場合は、その項目が適用される。科目等履修生に関する細則は別に定める。

2 本短大において単位を修得した後に本短大に入学した場合、その修得単位が 15 単位以上あり、授業科目の履修が体系的で、正規の学生と同様の教育効果をあげていると認められる場合、第 5 条の規定にかかわらず、教授会の議を経て、修業年限に 2 個学期を超えない範囲で通算することができる。履修年限の通算に関する細則は別に定める。

3 高等学校在校生で、本短大において授業科目の履修を希望する者があるときは、当該高等学校との協定に基づき、学長は、科目等履修生として履修を許可することができる。

(特別聴講学生)

第 35 条の 2 他の大学等との協議に基づき、当該他の大学等の学生に特別聴講学生として、学長は本短大授業科目の履修を許可することができる。

第 36 条 第 15 条の入学資格を有しない外国人に対して、本邦所在の外国公館の推薦がある者は、教授会の議を経て、留学生として入学を許可する。

(研究生)

第 37 条 本短大を卒業した者、又は之と同等以上の資格を有する者で、特に本短大で研究を希望する者がある場合は、教授会において選考の上、研究生として入学を許可する。研究生は指導教授を選び、一定の時期に研究の成果を報告しなければならない。研究成果の報告を怠り、或いは実があがらない場合は除籍する。研究生に関する細則は別に定める。

(学生に関する細則)

第 38 条 委託学生・科目等履修生・留学生・研究生など特別学生といえども、本学則の外、正規の学生に関するその他の規定を準用する。特別学生に関するその他事項は別に定める。

第 8 章 奨学制度

(奨学制度)

第 39 条 奨学の為、本短大に給付奨学制度を設ける。

2 奨学制度に関する事項は別に定める。

第 9 章 管理・運営・職員組織

(管理運営)

第 40 条 本短大の管理運営の責任は、学校法人沖縄キリスト教学院理事会が有し、その政策・財政・人事その他本短大に関する一切の管理権を有する。

(職員)

第 41 条 本短大に、学長、教授、准教授、講師、助教、事務職員その他職員を置く。

(学長)

第 41 条の 2 学長は、本短大の校務をつかさどり、職員を統督する。

2 学長に事故あるとき又は欠けたときは、学長があらかじめ定めた者が順位に従い、学長の職務を代理又は代行する。

3 学長の選任について、必要な事項は別に定める。

第 10 章 納 入 金

(納入金)

第 4 2 条 学生は、次に掲げる納入金を各々所定の期日までに、納入しなければならない。

- 1 入 学 金 130,000円 (入学時のみ)
- 2 授 業 料 660,000円 (年額)
- 3 教育充実資金 160,000円 (年額)
- 4 実験実習料 実費相当額

2 納入した授業料その他の学費は、事情の如何にかかわらず、これを返還しない。ただし、入学を内定した者が所定の期日までに入学の辞退を申し出た場合、入学金を除く学費を返還することができる。なお、納入後に休学する者の場合は、前項第 2 号・第 3 号の納入金については、これを復学時の納入金に振替えることができる。振替割合は別に定める。

3 実験実習料については、学科判定終了後 10 日以内に納入しなければならない。

4 在籍期間 2 年を超えて修学する者の授業料及び教育充実資金は、最終年次と同額とする。ただし、1 個学期のみ履修して卒業する者は、年額の 2 分の 1 とする。

(私費外国人留学生授業料減免)

第 4 2 条の 2 私費外国人留学生に対し、年額授業料の 50% を減免し、授業料の徴収については、前期・後期の納付額からそれぞれ 50% を減額した額を徴収する。

(休学期間中の学費及び在籍料)

第 4 3 条 休学期間中の学費はこれを徴収しない。但し、休学者は在籍料として 1 個学期につき 30,000 円を、休学を許可された日から 2 週間以内に納めなければならない。

第 11 章 会 計

(会計)

第 4 4 条 本短大の維持経費についての予算は、学年度毎に理事会の承認を得て別に定める。

2 会計に関する規程は別に定める。

第 12 章 諸 表 簿

(諸表簿)

第 4 5 条 本短大に次の表簿を備える。

- 1 本短大に関係ある法令その他諸規程
- 2 学則・その他の諸規則・日課表・短大沿革誌
- 3 職員名簿・履歴書・出勤簿・担当授業科目及び時間割表
- 4 入学者の選抜及び成績考査に関する表簿
- 5 学籍簿・在学生台帳及び健康診断に関する表簿・成績記録簿
- 6 往復文書処理簿
- 7 資産原簿・出納簿及び経費の予算決算についての帳簿並びに図書・機械器具・標本・模型等の教具の目録
- 8 その他の法令又は理事会・学長が必要と認める諸表簿

附 則

- 1 この学則は、1959年4月1日から実施する。
- 2 この学則の施行に関して必要な事項は別に定める。
- 3 この学則の改廃は理事会の議決による。

附 則

この学則は、1963年1月11日から施行し、1963年度に入学を許可された者から適用する。

附 則

この学則は、1965年4月12日から施行し、1965年度に入学を許可された者から適用する。

附 則

この学則は、1967年7月1日から施行し、1967年度に入学を許可された者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、1967年12月12日から施行し、1967年度に入学を許可された者から適用する。
- 2 保育科開設の際、現に児童福祉科に在籍する学生は、保育科開設の日から同科に在籍するものとする。なお、当該学生が現児童福祉科の課程において履修した単位は、支障のない限り、保育科の課程で履修した単位とみなす。

附 則

この学則は、1968年12月16日から施行し、1969年度に入学を許可された者から適用する。

附 則

- 1 この学則は、1969年10月16日から施行する。
- 2 キリスト教学科の廃科に伴う在籍者の取扱いについては、1970年3月31日まで有効とする。

(省略) 1970~2007年

附 則

- 1 この学則は、2008年4月1日から施行する。
- 2 2007年度の在学者で、卒業延期（休学及び留学を除く。）により在学年限を超える者の授業料は、最終年次の授業料の2分の1とする。ただし、1個学期のみ履修して卒業する者は、年額授業料の4分の1とする。

附 則

この学則は、2009年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2010年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2010年12月1日から施行する。

附 則

この学則は、2011年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2012年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、2013年10月1日から施行する。

附 則

この学則は、2015年4月1日から施行する。

別表 1 総合教育系科目

必修 選択の別	系 統	科目 CD	授 業 科 目	単位数	週時間	備 考	
必修 科目	キリスト教系	10001	※ キリスト教学Ⅰ	2	2-0		
		10002	※ キリスト教学Ⅱ	2	2-0		
	国語表現系	10003	◇ 表 現 技 法	2	1-1		
	IT系	10004	※ コンピュータリテラシー	2	1-1		
選択 必修 科目	キリスト教系	10067	キリスト教平和学	2	2-0	教員免許状 取得希望者 は○印必修	
		10063	キリスト教人間学（キリスト教倫理）	2	2-0		
	人文科学系Ⅰ	10011	文学と読書	2	2-0		} 保育士資格取得 希望者は必修
		10075	◇ はじめての日本語教育	2	0-2		
	<国語表現系>	10012	朗読の科学	2	2-0		
	人文科学系Ⅱ <沖縄研究系>	10078	◇ 沖縄の言語	2	2-0		
		10079	沖縄の歴史と現在	2	2-0		
	自然科学系	10071	科学リテラシー	2	1-1		
		10076	文系学生のための基礎数学演習Ⅰ	2	1-1		
		10077	文系学生のための基礎数学演習Ⅱ	2	1-1		
	社会科学系	10014	○ 日本国憲法	2	2-0		
		10015	心 理 学	2	2-0		
		10016	カウンセリング	2	2-0		
		10017	経 済 学	2	2-0		
	健康と運動系	10070	ヘルスプランニング	2	2-0		
		10020	○ 体育理論	1	1-0		
		10021	○ 体育実技	1	0-3		
	ボランティア 教育系	10068	要約筆記（ノートテイキング）	2	1-1		
		10066	ボランティア	1	0-2		
	外国語系	10025	◇ 日本語音声表現Ⅰ	1	0-2		
10026		◇ 日本語音声表現Ⅱ	1	0-2			
10027		オーラルイングリッシュ	2	0-2	} 保育科2単 位選択必修		
10028		英 語	2	0-2			
10029		中 国 語	2	0-2	} 英語科2 単位選択 必修		
10030		韓 国 語	2	0-2			
10031		スペイン語	2	0-2			
<p>[註1] 必修科目4科目8単位、選択必修科目8単位（一般6単位、外国語2単位）以上、計16単位以上履修しなければならない。</p> <p>[註2] 留学生・帰国生は、必修科目中の※印の科目を6単位、必修科目・選択必修科目の一般より◇印の科目2科目を含む8単位以上、外国語より2単位以上、計16単位以上履修しなければならない。</p>							

別表2 英語科専門教育科目

必修・選択の別	科目CD	授業科目	単位数	週時間	備考	
必修科目	20193	フレッシュマン・セミナー	2	1-1		
	20196	English Bible Reading	2	2-0		
選択必修A	20173	Oral English I	4	0-8	4科目16単位以上履修すること	
	20174	Oral English II	4	0-8		
	20175	Oral English III	4	0-8		
	20176	Oral English IV	4	0-8		
	20177	Oral English V	4	0-8		
	20149	Tourism English I	2	0-4		
	20150	Tourism English II	2	0-4		
	20178	Discussion in English I	*	2		0-2
	20179	Discussion in English II	*	2		0-2
	20180	Oral Presentation I	*	2		0-2
20181	Oral Presentation II	*	2	0-2		
選択必修B	20012	英作・文法 I	2	0-4	3科目6単位以上履修すること	
	20170	英作・文法 II	2	0-4		
	20016	高等英文法	*	2		0-2
	20014	Paragraph Writing I	2	0-2		
	20015	Paragraph Writing II	*	2		0-2
	20182	Advanced Writing	*	2		0-2
20183	Research Paper	*	2	0-2		
選択必修C	20019	英語講読 I	2	0-4	3科目6単位以上履修すること	
	20020	英語講読 II	2	0-4		
	20156	英語講読 III	2	0-4		
	20158	英語講読 IV	*	2		0-4
	20023	Current Issues in English	*	2		0-2
	20194	Current Issues Online	*	2		0-2
選択必修D	20198	多読	1	0-2	4科目8単位以上履修すること。	
	20199	英語検定演習 I	1	0-2		
	20200	英語検定演習 II	1	0-2		
	20201	Shadowing (Listening)	1	0-2		
	20202	English & American Literature	2	2-0		
	20207	Okinawan Studies	*	2		2-0
	20208	Global Issues	*	2		2-0
	20160	TOEIC I	2	0-2		
	20161	TOEIC II	2	0-2		
	20162	TOEIC III	2	0-2		
	20203	Business Writing	2	0-2		
	20188	同時通訳 I	*	2		0-2
	20189	同時通訳 II	*	2		0-2
	20205	同時通訳実践演習 I (Chapel Service)	*	1		0-2
	20206	同時通訳実践演習 II (Chapel Service)	*	1		0-2
	20171	同時通訳初級(夏期集中講座)	*	2		1-2
20172	同時通訳上級(夏期集中講座)	*	2	1-2		
20204	通訳実践活動(認定科目)	1	0-2			
選択科目	20218	コトバと論理	2	0-2	3科目6単位以上履修すること(選択必修Dからでも可)	
	20067	日本語表現法	*	2		2-0
	20036	秘書学概論	2	2-0		
	20037	秘書実務	2	0-2		
	20038	経営概論	*	2		2-0
	20185	簿記論	*	2		2-0
	20044	沖縄経済論	*	2		2-0
	20045	キャリアガイダンス	2	2-0		
	20056	マーケティング入門	2	2-0		

必修・選択 の別	科目CD	授業科目	単位数	週時間	備考
選択 科目	20046	インターンシップ(事前指導及び実習)	2		
	20048	マルチメディア演習 *	2	0-2	
	20053	プレゼンテーション概論 *	2	2-0	
	20055	情報機器利用プレゼンテーション演習 *	2	0-2	
	20168	通訳とプレゼンテーション *	2	0-2	
	20209	文化人類学 *	2	2-0	
	20210	国際平和学 *	2	2-0	
	20059	異文化理解 *	2	2-0	
	20211	国際ボランティア論 *	2	2-0	
	20212	メディア・リテラシー *	2	2-0	
	20213	ジェンダー論 *	2	2-0	
	20214	近代沖縄とアイデンティティ *	2	2-0	
	20163	海外研修(国際交流)	2		
	20164	海外研修(多文化共生)	2		
	20190	海外研修(国際協力)	2		
	20058	英語音声学 *	2	2-0	
	20057	英語学概論Ⅰ *	2	2-0	
	20215	英語学概論Ⅱ *	2	2-0	
	20216	英文学史 *	2	2-0	
	20217	国際理解教育 *	2	2-0	

1. 卒業するためには、必修科目4単位、選択必修科目36単位以上、計40単位を含む46単位以上を履修すること。

2. 10月入学生は、春学期に於いては2前の科目を取ることができる。(例：英作・文法Ⅱ)

3. *印の科目は、沖縄キリスト教学院大学において開設される科目である。
履修を希望する学生は、「県内私立大学単位互換制度」(P.30参照)の適用となるため、
教務課窓口にて特別聴講学生および科目登録の手続きを行ってください。

4. 四年制大学 編入希望者の科目の取り方(参考資料)

①希望する大学のカリキュラムを調べ、同一科目や類似内容の科目をなるべく多く履修する。

②教員免許状希望者は、次の科目を1～2年次で可能な限り履修する。2年次1月選考面接有り。

教科科目：英語音声学・高等英文法・英語学概論Ⅰ・Ⅱ(英語講読Ⅲ・Ⅳ)短大卒業単位(選択)

教職科目：教職の意義・教育原理・教育制度・生徒指導・学校カウンセリング・教育心理四大科目
(教職科目履修料：徴収有り)

成績について：秀・優の評価を目標とし、GPA2.8以上あること※可は認定されないケースがある。

英検について：英検2級以上を短大卒業までに取得しておくことが望ましい。英検2級取得は教職の
必須条件としている。

別表3 保育科専門教育科目						
必修選択の別	科目CD	授業科目	単位数	週時間	備考	
必修科目	30100	保育原理	2	2-0		
	30003	教育原理	2	2-0		
	30101	児童家庭福祉	2	2-0		
	30001	社会福祉	2	2-0		
	30006	キリスト教保育	2	2-0		
	30007	発達心理学Ⅰ	2	2-0		
	30102	乳児保育	2	0-2		
	30103	子どもの保健Ⅰ	2	2-0		
	30104	子どもの食と栄養	2	0-2		
	30105	家庭支援論	2	2-0		
	30013	健康指導法	1	0-2		
	30014	人間関係指導法	1	0-2		
	30015	環境指導法	1	0-2		
	30016	言葉指導法	1	0-2		
	30017	音楽表現指導法	1	0-2		
	30018	造形指導法	1	0-2		
	30106	地域子育て支援実習Ⅰ	1			
	30107	地域子育て支援実習Ⅱ	1			
30108	保育ボランティア体験	1		(29単位)		
選択科目	30019	音楽Ⅰ	1	0-2	幼免または保育士資格取得希望者は必修 (20単位)	
	30020	音楽Ⅱ	1	0-2		
	30021	図画工作Ⅰ	1	0-2		
	30022	図画工作Ⅱ	1	0-2		
	30023	幼児体育Ⅰ	1	0-2		
	30024	幼児体育Ⅱ	1	0-2		
	30123	幼児の生活	1	0-2		
	30026	飼育栽培	1	0-2		
	30027	幼児の言葉	2	0-2		
	30030	保育者論	2	2-0		
	30029	保育課程総論	2	2-0		
	30031	保育指導法ゼミ	2	0-2		
	30032	保育カウンセリング	2	0-2		
	30099	保育・教職実践演習(幼稚園)	2	0-2		
	30033	教育実習	5			幼免取得希望者は必修
	30034	視聴覚教育	2	0-2		幼免取得希望者は1科目2単位選択必修
30035	保育メディア研究	2	0-2			

必修選択の別	科目CD	授 業 科 目	単位数	週時間	備 考
選 択 科 目	30109	相談援助	1	0-2	保育士資格取得希望者は必修 (17単位)
	30110	社会的養護	2	2-0	
	30111	保育の心理学	1	0-2	
	30112	子どもの保健Ⅱ	2	2-0	
	30113	子どもの保健Ⅲ	1	0-2	
	30114	障害児保育	2	0-2	
	30115	社会的養護内容	2	0-2	
	30116	保育所実習Ⅰ	2		
	30044	施設実習Ⅰ	2		
	30117	保育所実習指導Ⅰ	1	0-2	
	30118	施設実習指導Ⅰ	1	0-2	
	30119	保育所実習Ⅱ	2		保育士資格取得希望者は1科目2単位選択必修
	30048	施設実習Ⅱ	2		
	30120	保育所実習指導Ⅱ	1	0-2	保育士資格取得希望者は1科目1単位選択必修
	30121	施設実習指導Ⅱ	1	0-2	
	30049	発達心理学Ⅱ	2	2-0	
	30050	海外幼児教育研究	2	2-0	
	30122	総合表現	1	0-2	
30052	手 話 Ⅰ	2	0-2		
30053	手 話 Ⅱ	2	0-2		
30054	音 楽 Ⅲ	1	0-2		
30055	海外幼児教育研修	2			
30051	老人福祉論	2	2-0		

備考

1. 施設実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習Ⅰ・Ⅱは、保育士資格を取得しようとする者が履修する。
2. 教育実習は、幼稚園免許状を取得しようとする者が履修する。
3. 開設年次・学期は、諸般の事情により変更があり得るので、特に休学・復学の際にはその旨注意すること。
4. 卒業後に、教員免許状・保育士資格を取得しようとする者は、科目等履修生として次の①・②により、必要科目を修得し、免許・資格を取得することができる。
 - ①卒業直後連続して取得する場合：在学時のカリキュラムによることできる。
※卒業直後の学期に該当科目がない場合：空白期間1学期に限り連続履修とみなす。
 - ②卒業後期間を置いて取得する場合：全て変更後の新カリキュラムによること。
※卒業時点の不足科目だけではないので、自己の責任においてチェックを十分にすること。